

# 無線で車の入退管理

## マイクロニクス ETC車載器を応用

電気計測機器のマイクロニクス（東京都八王子市）は、高速道路の自動料金收受システム（ETC）の無線通信方式で車両の入退管理や道路の渋滞調査を行うシステムⅡ写真Ⅱを開発した。入場制限が必要な場所に事前に登録した車両だけが出入りできるようにした

り、道路の渋滞区間を把握したりすることができ、8月から情報システム構築会社を通じて販売する。狭い範囲で情報を高速でやりとりできる双方向無線通信方式「DSRC」を利用する。ETC車載器にそれぞれついている固有の無線用識別番号を

出入り口や道路などについているアンテナで読み取る。入退管理では、出入りできる車両の無線用識別番号だけを事前に登録、登録済み車両が通過するときだけゲートを開閉する。マンションの駐車場に住民の車両だけが入れられるようにしたり、災害の



被災地や工事現場で、登録していない車両の入場を制限したりといった利用方法を想定している。渋滞調査では道路上に

アンテナを設置して、同一車両が2地点を通過した時刻を記録し、時間差から混み具合を把握する。

システムは情報システム構築会社が設置する。導入費用は約40万円から。ループアンテナなどを床下に埋め込んで入退

を管理するシステムに比べて、設置工事を簡単にして、低価格でできるといふ。3年間で600台の受注を目指す。